

Konan Today No.65

KONAN

No. 65

2024
Spring



特集“新たな挑戦”と“伝統の継承”
躍動する甲南生たち

なるほど! 甲南アカデミア 特別編
カーボンニュートラルの実現へ
エネルギー変換材料研究の最前線

今だからわかる学びの楽しさ、
いくつになっても成長できる喜び
リカレント教育プログラム

Konan Today No.65

2024年3月18日発行 [発行] 甲南学園広報部 TEL:658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号 TEL:078-431-4341(代) <https://www.konan-u.ac.jp>



甲南 フォトグラファー



甲南大学公式キャラクター「なんぼーくん」
ぬいぐるみの販売を開始（税込2,200円）



ご購入・詳細は二次元コードから

甲南大学生協 学友会館北館1階 Books & Support 店頭でも販売中 (TEL:078-441-7902)

CONTENTS

- 02 特集
“新たな挑戦”と“伝統の継承”
躍動する甲南生たち
- 03 体育会女子陸上競技部
- 07 甲南高等学校・中学校プラスアンサンブル部
甲南大学文化会JAZZ研究会
- 11 なるほど！甲南アカデミア 特別編
エネルギー変換材料研究の最前線
- 13 対談 エネルギーの未来に研究力で立ち向かう
理工学部 機能分子化学科 教授 山本 雅博
准教授 木本 篤志
- 15 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style
俳優・声優
合田 沙おりさん
- 17 高中TOPICS
つながる、ひろがる甲南スピリッツ！
—甲南祭・第2回ソフィア講演会・音楽鑑賞会—
- 19 KONAN TOPICS
- 21 今だからわかる学びの楽しさ、
いくつになっても成長できる喜び
リカレント教育プログラム
- 23 ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム
受講生インタビュー
- 25 甲南解体新書 #04
覚えてていますか？掲示板
- 27 岡本ぶらり 第14回
知っていましたか？
映画・ドラマのロケ地になった岡本かいわい
- 29 KONAN FORUM
課外活動成果報告／
新刊一覧 ほか

裏表紙 甲南 フォトグラファー



表紙の1枚
六甲アイランドの南グラウンドで
練習中の女子陸上競技部



特集

“新たな挑戦”と“伝統の継承” 躍動する甲南生たち

100余年の歴史を誇る甲南学園。さまざまなクラブ活動も時代を重ねながら、
数えきれない成果をあげて甲南の名を世に知らしめています。長い歴史の中で、伝統を守りながら
さらなる洗練をめざす活動と着実に成果を重ねる新たな領域での挑戦。

躍動する甲南生たちの一端をご紹介します。





体育会女子陸上競技部の躍進！ 輝かしい戦績の理由

甲南大学体育会女子陸上競技部の快進撃が止まらない——。近年、短距離走やリレーのトラック競技をはじめ、走高跳や走幅跳のフィールド競技においても数々の大会で好成績を収めています。昨年秋には日本陸上競技選手権大会・リレー競技の4×100m二連覇、日本学生陸上競技対校選手権大会の個人100mで1位から3位までを本学が独占しました。写真は練習前の部員たち。その元気な笑顔から、明るくはつらつとした雰囲気が伝わってきます。



中学校 プラスアンサンブル部

「Jazzの甲子園」とも言われるJapan Student Jazz Festivalに毎年のように出場。2023年は中学校の部で「兵庫県知事賞」を受賞。

中学校リーダー 中3 上野 弘峰さん

モットーは「Be Happy Together」 JAZZで世界につながることを実感

プラスアンサンブル部は、スクールバンドとして全国でも名をはせています。音楽への取り組みの真剣さでは、どこにも負けません。その一方で、どんなときもリラックスして、音楽の演奏を楽しみたいと思っています。わが部がモットーとして掲げているのが「Be Happy Together」です。奏者とオーディエンスが音楽で幸福を分かち合う、そんなおおらかなことです。高校の先輩たちとレベルの高い演奏をすることも多く、練習も大変ですが、Happy Togetherになる瞬間のことを考えると、何時間でも練習に打ち込めます。つい最近、ジャズをやっていて心からよかつたと思えることがありました。秋にシンドニーカラ日本へ演奏ツアーより来ていた市民ジャズバンドと交流演奏会をしたのですが、一緒に楽器を鳴らしているだけで、ことばはなくとも不思議と気持ちが通じ合えました。生まれた国は違っていても、自分が音楽という同じ世界に住んでいると感じられました。高校へ進んでもジャズを続けていくつもりですが、また何度も同じような体験ができると思うと、楽しみでなりません。



高校 プラスアンサンブル部

Japan Student Jazz Festivalに毎年出場。2023年は高校の部で「日本学校ジャズ教育協会会長賞」を受賞。

名門に連なる誇りと情熱 音楽を通じて甲南スピリットの継承を

プラスアンサンブル部からは、多くのプロミュージシャンが巣立っています。名だたる先輩たちの演奏を聴くにつけて「自分は一步でも近づけるのか」と身がすくむ思いになります。同時に、そういった名門に連なることへの誇りを感じます。甲南は多くの生徒が中高を通じて6年間、同じクラブに所属するという校風です。特に、私たちの部では、中・高校生が同じバンドとしてステージに立ち、中学1年生と高校3年生が隣り合わせで練習に取り組むといった風景も見られます。自分の感覚を思い返しても、4、5歳年上の人たちというのは大人に見え、音楽の技量も圧倒されるばかりでした。そうした先輩たちを仰ぎ見て育った5年間は、自分にとって人間的な成長にもなったと思いません。ですから、今の高二、三年生の姿を見て、ずつと年下の後輩たちが成長の糧にしてくれば、と願っています。こう話していると、まじめ一徹の部活動のようですが、私たちの自慢は自由闊達な雰囲気です。ものごとに真剣に打ち込む姿勢とともに、ジャズのスピリットであり甲南の気風もある軽やかで柔軟な精神が、継承されていくべきだと思います。

受け継がれる伝統と 奏でる楽しさ、 響き合う、音楽の力

—甲南高等学校・中学校プラスアンサンブル部、甲南大学文化会JAZZ研究会—

日本で最初のプロジャズバンドが神戸のオリエンタルホテルで演奏をしたことから、神戸はジャズ発祥のまちとされます。

その初演奏から100年目の2023年、「神戸ジャズ100周年」を迎えた。

節目を記念した演奏イベントにプラスアンサンブル部とJAZZ研究会が参加するなど、地元を大いに盛り上げました。プラスアンサンブル部、JAZZ研究会はプロミュージシャンを世に送り出している名門として知られています。

今回は、それぞれの部で活躍する生徒と学生に取材し、音楽愛と活動への思いを語ってもらいました。



<プラスアンサンブル部>

リコーダーアンサンブル、木管アンサンブルの演奏クラブとしてスタートし、プラスアンサンブル部となる。40年以上の歴史をもち、トランペッター黒田卓也さん、広瀬未来さんのプロミュージシャンを世に送り出している。



部長 中野 美月さん（法学部法学科 3年次）

100年続く神戸のJAZZ文化を多くの人たちと分かち合いたい

**音楽を本気で楽しみ、人間力を育む
先輩たちとの絆が深まり視界もひろがる**

JAZZ研究会（以下、JAZZ研）は、2002（平成14）年に文化会所属のクラブ活動として認められました。

集まるのはすべて、ジャズを本気で楽しみ、創りあげていく人たちです。私は高校の時からサックスを吹いていて、ジャズができる大学を探していたので、甲南のJAZZ研を見つけたときは非常にうれしかったです。ビッグバンドでは、小規模バンドとは比較できない圧倒的な音の深さと厚みが生まれます。人数が多いため、練習で1フレーズを合わせるだけでも数時間かかるほどなのですが、一つひとつ積み上げてその成果をオーディエンスに届けるときは、ことばで言いつくせないよろこびがあります。

神戸はジャズ発祥のまち。港のある国際都市でお洒落なジャズが似合うロケーションがたくさんあります。ジャズに関わるイベントが毎年いくつも開かれていて、私たちJAZZ研も毎年20以上の催事に招かれます。2023年は「神戸ジャズ100周年」があるので目が回るような忙しさでしたが、記念すべき年



<Newport Swing Orchestra>

ジャズ経験者を中心構成するオーケストラバンド。略してNP。Count Basie楽団の曲を中心に演奏。ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテスト賞や奨励賞など多くの賞を受賞。

KOBEの人とまちをスイングさせる演奏を！ 甲南大学文化会JAZZ研究会



<Big Mountain Jazz Orchestra>

ジャズ経験者から楽器の初心者まで幅広いメンバーで構成するオーケストラバンド。略してBM。Count Basie楽団の曲のみならず、Gordon GoodwinやBuddy Rich, Glenn Millerなどさまざまな楽団の曲を演奏。



部室前に掲げられている木製の看板

にジャズゆかりのさまざまな場所で演奏できたことを誇りに思います。私はジャズのストリートイベントが大好きです。愛好者が集まるクラブなどとは違い、日頃はジャズとは縁のない人、子どもからお年寄りまでいろいろな人が私たちが奏てる音に反応してくれます。旧居留地で行われるジャズイベントでは、音楽に合わせてステップを踏む人、踊りだす人も。これこそがジャズのスイング。演奏者とオーディエンスが大きな波に包み込まれる至福の時間です。

JAZZ研には二つのビッグバンドがあります。各バンドに統括するコンサートマスター、部会代表、会計などの執行部があつて、全員が役割を担い運営に参加します。演奏力だけではなく、コミュニケーション能力など社会で役立つ人間力を磨くことが目標です。また、卒業生とのつながりが強く、音楽だけではなくさまざまな面で視野が広がります。ジャズを楽しみ、人間力を磨いていく、JAZZ研での体験は生涯の宝になると思います。

光、熱、電気、化学など私たちのまわりにはさまざまなエネルギーがあります。あるエネルギーを他のエネルギーに変えることを「エネルギー変換」といいます。たとえば電気エネルギーを光に変える電球や、ガソリンの化学エネルギーを運動に変換するのが自動車のエンジン、大規模なものでは火力や水力を電気エネルギーに変える発電所が挙げられます。こういった技術を、材料科学の側面から研究するのが「エネルギー変換材料研究」です。カーボンニュートラル社会の実現において、太陽光などの自然エネルギー、再生可能なエネルギー資源の有効利用は必須の課題であり、エネルギー変換材料の研究

2019年4月 研究所開設 エネルギー変換材料

2021年、文部科学省、経済産業省、環境省の先導により、カーボンニュートラルに向けた積極的な取り組みを行っている、あるいは取り組みの強化を検討している大学などによる情報共有と発信の場として「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリシジョン」が立ち上げられました。本学は、この「コアリシジョン」に加盟し、三つの行動に取り組んでいます。(1)環境リテラシーを備えた人材の育成(2)カーボンニュートラルに関するイノベーションの創出(3)キャンパスのゼロカーボン化の推進。とりわけ②は「研究・教育」という大学の機能の根幹における取り組みであり、「エネルギー変換材料の開発研究」はそういったアクションの一つとなります。

甲南学園が取り組む
カーボンニュートラル

2021年、文部科学省、経済産業省、環境省の先導により、カーボンニュートラルに向けた積極的な取り組みを行っている、あるいは取り組みの強化を検討している大学などによる情報共有と発信の場として「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリシジョン」が立ち上げられました。本学は、この「コアリシジョン」に加盟し、三つの行動に取り組んでいます。(1)環境リテラシーを備えた人材の育成(2)カーボンニュートラルに関するイノベーションの創出(3)キャンパスのゼロカーボン化の推進。とりわけ②は「研究・教育」という大学の機能の根幹における取り組みであり、「エネルギー変換材料の開発研究」はそういったアクションの一つとなります。

は、その中心的な役割を担う研究といえます。こうした流れの中で、2019年4月に、理工学部機能分子化学科の四人の教員によって特定プロジェクト研究所の一つとして「エネルギー変換材料研究所」が組成されました。現在、国内外を含めた一般企業との共同研究を中心としており、国家プロジェクトである科学技術振興機構(JST)の次世代蓄電池プロジェクト(ALCA-SPRING)や新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の先進・革新蓄電池材料評価技術開発プロジェクト(SOLID-EV)に参画したほか、2023年度からはJSTの「革新的GX技術創出事業(Gtex)」にも参画しています。



\なるほど!/

**甲南アカデミア
特別編**

カーボンニュートラルの実現へ エネルギー変換材料研究の最前線

私たちの住む地球が持続可能であるために、全世界的な達成目標として掲げられた「カーボンニュートラル」。実現には、一人ひとりの意識の改善とともに、「科学」という大きな力が必要です。理工系の学究に力を入れている甲南大学でも、カーボンニュートラルへのアクションを起こしています。その一つが「エネルギー変換材料研究所」の取り組みです。社会的課題の解決へ向けた本研究所の活動やエネルギー変換材料の開発研究の今をご紹介します。

写真はエネルギー変換材料研究所のメンバー
左から理工学部 機能分子化学科 准教授 木本 篤志 教授 山本 雅博 教授 町田 信也 教授 池田 茂

新しい地球の道しるべ、カーボンニュートラル
地球温暖化への歴史は喫緊の課題ですが、私たちは今の経済活動を止めるわけにはいきません。このため、人が排出せざるを得なかった分と同じ温暖化ガスを森林が吸収したり、人が除去を工夫することで社会全体でプラスマイナスゼロに近づけようというのが「カーボンニュートラル」の考え方です。

カーボンニュートラルに貢献するエネルギー変換材料の開発研究



「甲南新世紀戦略研究プロジェクト(第Ⅰ期)」には次の3研究が採択されています

- 「未利用熱マネジメントに向けた革新的熱電変換ナノ材料の開発」研究代表者: フロンティアサイエンス学部 生命化学科 教授 赤松 謙祐
- 「カーボンニュートラルに貢献するエネルギー変換材料の開発研究」研究代表者: 理工学部 機能分子化学科 教授 町田 信也
- 「非ワトソン・クリックワールドの核酸化学の確立と国際核酸化学研究拠点の形成」研究代表者: 先端生命工学研究所 准教授 建石 寿枝

研究所はどのような経緯で発足したのでしょうか?

山本 実は研究所発足以前からメンバー間での共同研究は行わっていました。私の専門は計算科学・量子化学で、町田先生と一緒に、蓄電池内のイオン移動経路の解析に関する研究をしていました。

木本 私の専門は有機太陽電池ですが、池田先生と一緒に水素エネルギーの発生効率を高めるために無機化合物からなる光触媒と有機化合物とのハイブリッド化を実現する道を模索していました。

山本 そのような四人が意見と情報を交換するうちに、昨今の環境・エネルギー分野で材料科学に関する研究や人材のニーズが高まっています。こういった成果は次世代のクリーンエネルギーである水素ガスの製造なども含むもので、性能を大きく高められればと考えています。

木本 私たちはSDGsに資するものだと思います。研究所としては、私たちは四人とも専門分野が異なるので、研究成果を融合できる可能性を秘めている点が大きな特徴ですね。

山本 通常はプロジェクトというと中心になる研究者とそのサポート役で構成されるケースが多いのですが、私たちは四人全員がプレイヤーで、性能を高められればと考えています。

まつていることを再認識して、そのプラットフォームとして、分野横断型の研究所を立ち上げようということになりました。

木本 蓄電池や太陽電池などは脱炭素・エネルギー効率化社会において重要な役割を果たすとされていますが、私たちはそういうデバイスを構成する材料を進化させることで、性能を大きく高められればと考えています。

山本 これまで利用できなかつた近赤外光を使って発電できる有機半導体材料を研究しています。太陽エネルギーを利用する場合、今の材料だと太陽光の中でも可視光領域をターゲットとしており、それ以外の波長領域の光は発電に使われていなかつたが、そういう点が大きな特徴ですね。

木本 私は、「これまで利用できなかつた近赤外光を使って発電できる有機半導体材料を研究しています。太陽エネルギーを利用する場合、今の材料だと太陽光の中でも可視光領域をターゲットとしており、それ以外の波長領域の光は発電に使われていなかつたが、そういう点が大きな特徴ですね。

山本 通常はプロジェクトというと中心になる研究者とそのサポート役で構成されるケースが多いのですが、私たちは四人全員がプレイヤーで、性能を高められればと考えています。

木本 私たちはSDGsに資するものだと思います。研究所としては、私たちは四人とも専門分野が異なるので、研究成果を融合できる可能性を秘めている点が大きな特徴ですね。

山本 通常はプロジェクトというと中心になる研究者とそのサポート役で構成されるケースが多いのですが、私たちは四人全員がプレイヤーで、性能を高められればと考えています。

木本 私は、「これまで利用できなかつた近赤外光を使って発電できる有機半導体材料を研究しています。太陽エネルギーを利用する場合、今の材料だと太陽光の中でも可視光領域をターゲットとしており、それ以外の波長領域の光は発電に使われていなかつたが、そういう点が大きな特徴ですね。

山本 通常はプロジェクトというと中心になる研究者とそのサポート役で構成されるケースが多いのですが、私たちは四人全員がプレイヤーで、性能を高められればと考えています。

木本 カーボンニュートラルやエネルギーの効率化はさまざまな考え方、どちら方が



対談

エネルギーの未来に 研究力で立ち向かう

理工学部機能分子化学科に所属する四人の教員が集まって
自発的に立ち上がった特定プロジェクト研究所の一つである「エネルギー変換材料研究所」。

専門分野の違うメンバーが、どのように研究に取り組み、どう
研究所の成り立ちと今後のビジョンも含めて、二人の先生に語っていただきました。

最後に研究所の今後について 一言お願いします

あります。 「エネルギー材料」という立脚点があれば、コンセプトがより明確になり、社会に有用なアイデアを出していきやすいと思います。

池田先生の知り合いの先生を通じて得た情報からヒントを得て新しいハイブリッド型の量子のアイデアが生まれたので、研究費を申請して進めていくことになりました。このような融合的な連携がこの枠組みの中で今後もいろいろあると思っています。

異なる学域での協働は、国が絡んだ大きなプロジェクトもあるのですが、そんな場合は構成メンバーのスケジューリングさえ大変なんです。それが学内の隣の研究室にメンバーがいるので思っていたらちょっとお茶を飲みながら相談するのはとてもいいと思います。

異なる学域での協働は、国が絡んだ大きなプロジェクトもあるのですが、そんな場合は構成メンバーのスケジューリングさえ大変なんです。それが学内の隣の研究室にメンバーがいるので思っていたらちょっとお茶を飲みながら相談るのはとてもいいと思います。

私は池田先生と先ほど話したハイブリッド光触媒の研究を今後も共同でやっていきます。山本先生には、今後も有機化合物の中で金属原子の入った特殊な組成を有する化合物の計算を手伝っていただく可能性があります。私たちも直統合ではなく水平連携だからどこから意外なテーマが浮上するかわからないところがある。そこが面白いと思いません。それでもお互いがそれぞれの専門領域の知り合いも大勢いるので、最新の情報や見聞もつなげて広げていくことができます。この間も

教育機関として学生への影響についてはいかがでしょうか?

山本 私たちは異なる分野・視点からのアプローチが生まれるので、刺激的な議論ができる。そのことはよい影響を与えるのではないか。

木本 私たちは研究所として自分の研究を外にアピールする、いわばブランド力をつけることが求められるのですが、その姿を見て新しいベクトルをつくっていくはずです。

木本 「甲南新世紀戦略研究プロジェクト」に採択されたことを機に、いろいろ巻き込んでさまざまな面で楽しい研究所にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

山本 私たちは異なる分野・視点からのアプローチが生まれるので、刺激的な議論ができる。そのことはよい影響を与えるのではないか。

木本 新素材の開発は化学だけではなく物理、工学、医療などさまざまな科学の発展に資する、波及効果の高いものです。特に材料科学のいいところは製品として実装化されるスピードが早いことです。他の研究分野に比べてはるかに早い。このプロジェクトで得られた成果もうまくいけば1、2年で産業の最前線に躍り出る可能性もあります。

山本 連携でアウトプットが多いとそれだけ実装化の道筋も増えるわけです。

ヤーなので、研究成果をもち寄って、互いにヒントを与え合うことができます。蓄電池、光触媒、太陽電池、高次計算と入口が4つあります。こういった成績は次世代のクリーンエネルギーである水素ガスの製造などを含むもので、性能を大きく高められると考えています。このうちの一つが、性能を大きく高められると考えています。

お一人はどんな研究に携わっています。

お一人はどんな研究に携わっています。

私は、「これまで利用できなかつた近赤外光を使って発電できる有機半導体材料を研究しています。太陽エネルギーを利用する場合、今の材料だと太陽光の中でも可視光領域をターゲットとしており、それ以外の波長領域の光は発電に使われていなかつたが、そういう点が大きな特徴ですね。

INFORMATION

2026年4月、理工学部に
環境・エネルギー工学科
設置構想中
※詳細は19ページをご覧ください



さまざまな分野
第一線で活躍する卒業生

「アメリカに行きたい」 その気持ちだけで渡米し、俳優になる夢を実現

たつた一人、ゼロからつかんだ今の充実

PROFILE

ごうだ さおりさん
俳優・声優 合田 沙おりさん

2007年、文学部英語英米文学科卒業。俳優になるため、大学入学と同時に劇団に入団し、舞台演劇、時代劇、映像、ミュージカルなど芝居経験を積む。声優プロダクションにも所属し、声優、ナレーター、MCとしても活動。2009年に単身渡米し、以降、米国で数々の映画、TVに出演。主演した映画『MY DAUGHTER YOSHIKO』では多くの映画祭で主演女優賞など3賞を受賞。

映画『MY DAUGHTER YOSHIKO』ポスター

合田さんが俳優に憧れたのは、幼いころ家族と一緒によく観ていた洋画の影響だったといいます。俳優になる夢を抱き、大学時代から芝居を始め、縁あって声優プロダクションに所属。キャスター、ラジオDJとして番組にレギュラー出演するなど、声の仕事が増えつつあった中、それらを手放し、単身で渡米。現在はニューヨークで俳優、声優として活躍中です。2019年には映画で主演女優賞を受賞。異国の地で夢をかなちにした、その道のりを語っていただきました。

「行つたらいいやん
その一言で渡米。そこは夢をまっすぐ追える国だつた

俳優、声優という夢をかなえ、現在アメリカで活躍する合田さん。渡米にあたり、相当の覚悟や計画があつたかというと、実はそうではないらしい。きっかけは、DJとして日本とアメリカを行き来する友人に、ニューヨークに住むことへの憧れを口にしたこと。「言、「行きたいなら行ったらいやん」と返されたのだ。シンプルなその考えに妙に納得し、渡米を決意。約15年たった現在、たまの帰省以外は日本に帰ることなく、ニューヨークに住み続ける。

渡米するまでの合田さんは劇団で芝居をし、縁あって声優プロダクションに所属。渡米を決めたころは司会やナレーター、レポーターなど声の仕事が増え始めていた。一方で、周りの目も気になっていたという。「一般的な会社員のように同じ時間に出勤することもなく、収入も不安定。ましてや本当は俳優になりたいんだんて、人からどう思われているだろう」と。声の仕事を好きで、やりがいもあった。しかし、俳優になる夢をひたむきに追いかけていたはずが、いつの間にか、かなわぬ夢のようにとらえていた。

単身渡米した2009年春。降り立った

ニューヨークはエネルギーにあふれていた。誰もが自分のやりたいことを思うがままにできる街。「ここなら俳優になる夢をまっすぐ追いかけられる」。当時は1年間だけのつもりだった滞在期間だが、すぐに延長を決めた。

「この国で俳優として生きる」
その決意で、話せなかつた英語も
アメリカ式の演技も勉強

当初は英語での生活にも慣れず、現地に知り合いもいない状況だった。シェアハウスに住まいを確保し、生活費を稼ぐためアルバイトで寿司屋の受付を始めた。英語が聞き取れず予約を間違え、お客様を怒らせて泣いたことも。アメリカでの日々に慣れるまで二年はかかりたという。それでもがんばってこれた理由は、俳優としてのチャンスの多さだ。ハリウッド映画など大きな作品のオーディションを受けるために、日本なら大手プロダクションに所属する必要がある。しかし、アメリカでは、広く一般公募することも少くない。それに、俳優の仕事もニューヨークの街も好きだという気持ちが大きく、決意は変わらなかつた。アメリカで俳優をするには語学が必須なため、苦手なアクセントを克服するためのレッスンや、アメリカ式の演技を身につけるために演技の学校に複数通つた。どんなに辛くともまっすぐ夢を追いかけた。

日本にいたころは、「俳優になる夢がかなえれば人生は成功」と思つていたといいます。しかし、大



『MY DAUGHTER YOSHIKO』撮影現場

世界各国の映画祭で
主演女優賞を受賞
さらなる自信や喜びに

日本にいたころは、「俳優になる夢がかなえれば人生は成功」と思つていたといいます。しかし、大



『COMPULSION』のワンシーンと撮影前の一コマ

渡米に計画や理由はいろいろ
行きたいと思った気持ちを
大事にしてほしい

かつては仕事が途切れた時期もあり落ち込むこともあったという。でも「常にハッピーでいることが大事だとわかりました。旅行や遊びでもいい。アクティビティに楽しんでいると、そのエネルギーに仕事が舞い込んでくるんです。そしてオファーがあったら仕事や人に丁寧に向き合うことも大事」と合田さん。シビアな個人主義だと思われるがちなアメリカだが、一方で人の関係性や人柄を大切にする文化だ。現在の合田さんの仕事も元をたどれば、渡米後すぐの司会の仕事が始まりだつた。そこからナレーターや声優の仕事が広がり、現在の俳優プロダクションへとつながつて、約15年。ただ、アメリカで司会に挑戦できたのは、日本で声の勉強をしてプロとしての実績を積んでいたからであり、オフ・ブロードウェイでの時代劇に抜擢されたのも、時代劇の力になつた。「いつかT.Vドラマシリーズにレギュラー出演したい」と今も夢をまっすぐ追い続けるボーダレスが進む時代に、海外での活躍を望む人が増える中、もし渡米を考えているなら行動したほうが良いと語る。「綿密な計画などなくとも、行きたい気持ちを大事にしてほしい。たとえすぐに帰国することになつたとしても、その経験はきっとプラスになるはず」と背中を押す。苦労も成功も経験した合田さんのことばは力強い。

つながる、ひろがる
甲南スピリツツー

甲南高等学校・中学校では、生徒たちがさまざまな経験を通して大きく成長するため、今年度も多くの行事を開催。秋の文化祭や講演会、音楽鑑賞会では、世代を超えた甲南OBとの関わりや学園を通したつながりに触れ、改めて旧制甲南高等学校創立100年を超える歴史の厚みを感じるものとなりました。

甲南祭

テーマは「文藝再興」
伝統を引き継ぎ、進化した



OB企業とコラボした模擬店も並びました

あふれる創意工夫と活気！ 大きく盛り上がった2日間



「甲南健児の意気を見よ」

大阪大学名誉教授 福井俊郎先生による講演

—第2回ソフィア講演会—

大先輩の福井先生が語られた 旧制高校時代の学生生活と平生精神

大先輩の福井先生が語られた 旧制高校時代の学生生活と平生精神

9月28日に行われたソフィア講演会は大阪大学名誉教授福井俊郎先生（旧26回理）をお招きし、旧制甲南高等学校で学ばれていた当時の様子や、今も昔も変わらぬ平生精神について語っていただきました。福井先生が学ばれた時代の旧制高等学校は全国で38校あり、そのうち私立の旧制高校は甲南を含む4校。官立の旧制高校はバンカラな雰囲気でしたが、私立の旧制高校は大正ロマンの開花に応じたスマートな学生スタイルであったとのことです。尋常科4年・高等科3年の7年制で、学年の約1割が留年するほど進級基準は厳しかったそうですが、そのころから自由な環境で個性を伸ばし、自らを律して人格形成をすればよいと感じられるような校風でした。

当時は甲南ラグビーの黄金時代で、学生たちは勝利すると応援歌を歌いながら街を練り歩いたそうで、福井先生はステージでその応援歌を披露してくださいました。また、学徒出陣や勤労動員で学校がひとつりとしたこと、戦争で犠牲になつた生徒のことなど戦時下における苦難についてもお話しいただきました。

最後に、平生先生が当時の生徒へ残したメッセージ「自分が天から与えられた才能を發揮することに努力していれば、自分の心や行動に少しも恥じることはない」を、生徒たちに伝えられて講演を結ばれました。



関西フィルハーモニー管弦楽団による 美しく壮大な演奏に感動!

— 音樂鑑賞会 —

本物に触れる貴重な体験

11月13日、甲南女子大学芦原講堂にて、



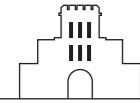
貴志 康一 (1909~1937)

甲南で学んだ日本を代表する音楽家で、日本のクラシック音楽の草分け的存在。スイス、ドイツへ留学して研鑽し、指揮者・作曲家として活躍。日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士のストックホルムでの晩餐会では貴志康一の「竹取物語」が演奏されました。



貴志康一作曲の「竹取物語」など、美しく壮大な演奏を楽しみました。第二部では、同楽団の首席指揮者である藤岡幸夫氏のエスコートでカルメン「闘牛士」の指揮者体験が行われ、指揮を任せられた中3と高二の生徒2名は全校生徒や保護者の視線が集まる中、個性豊かに堂々とした指揮を披露しました。オーケストラ音楽などを披露し、生徒たちにとつてもすばらしいひとときとなつた音楽鑑賞会。アンコールのモンスター・ハンターハンマー「英雄の証」でフィナーレを飾りました。

が集まる中、個性豊かに堂々とした指揮を披露しました。オーケストラ音楽など全9曲を堪能し、生徒たちにとつてもすばらしいひとときとなつた音楽鑑賞会。アンコールのモンスター「ハンタ」「英雄の証」でフィナーレを飾りました。



「オール甲南の集い2023」を4年ぶりに開催

10月22日、岡本キャンパスで「オール甲南の集い2023」を4年ぶりに開催し、卒業生など900名を超える来場者でにぎわいました。交響楽団によるウエルカム演奏が流れる中、甲友会館では「世界甲南会」の紹介や、旧制甲南高等学校開校100周年を記念し、歴史をスライドで振り返ったほか、現役学生の活躍を紹介するコーナーでは、体育会女子陸上競技部の岡根和奏選手(営2)、藏重みう選手(文1)が登壇し、戦績報告を行いました。午後からはクラブやサークル、ゼミの仲間で集まってのホームカミングランチ、演歌歌手の瀬口侑希さん(H10法卒)のトーク&ライブショーや甲南歌唱祭の開催や各音楽団体の演奏が披露されました。このほか、学生による数々のパフォーマンスや発表、縁日やキッズコーナーがお目見えし、各イベントは大いににぎわいました。全体交流会にも数百名の方にご参加いただき、お楽しみ抽選会など世代を超えた交流を楽しみました。(甲南大学同窓会甲南会ホームページより抜粋)



「甲南映画祭」を開催

11月30日から12月8日、文学部の企画による「甲南映画祭」を開催しました。今回のテーマは「万博」で、2025年大阪・関西万博を前に、1970年大阪万博に関する作品の上映と、「開幕特別企画」として、齋藤元彦兵庫県知事をお迎えし、万博や映画、SDGsに関する、本学学生との座談会も実施しました。映画祭で上映された作品は1970年の万博で公開された『1日240時間』など、貴重な作品の数々。往年の名作に学生をはじめ近隣の映画ファンの方々もキャンパスに足を運んでいただき、のべ800名近くの来場者でにぎわいました。



2024 Spring VOL.65

神戸市ふるさと納税「未来の神戸づくりに向けた大学等応援助成」へのご寄附ありがとうございました

甲南大学は、神戸市ふるさと納税「未来の神戸づくりに向けた大学等応援助成」に参画し、神戸市への寄附を通じて本学へのご支援を募っておりますが、令和5年12月末までの1年間の受け入れ状況をご報告させていただきます。

ご卒業生をはじめとする学園関係者の方々を中心に、のべ120名、総額12,121,000円(うち、本学への助成額は、総額より神戸市経費を差し引いた9割程度)のご寄附をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、いただきましたご厚志は、教育研究環境の整備や地域住民を対象にしたリカレント教育・公開講座をはじめとした生涯学習事業などに活用させていただきます。神戸市ふるさと納税を活用した大学等応援助成は今後も継続いたしますので、引き続き、ご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。



「こんなKONANグッズあったらいいな」
みなさまのお声をお聞かせください!

「Konan Today」では、アンケートにお答えいただいたみなさまに抽選でKONANグッズ(非売品)をプレゼントしています。今後のグッズ制作の参考にさせていただきますので、「こんなグッズがあれば欲しい」などのお声をぜひお寄せください。
※詳細は「Konan Today No.65」Webアンケートの9番目にご回答ください。



Webアンケートはこち



甲南大学オープンキャンパス 2024

春期 4月7日(日)
夏期 8月3日(土)、8月4日(日)
秋期 9月15日(日)

全日程とも3キャンパス(岡本・西宮・ポートアイランド)同時開催・事前申込制を予定しております。イベント内容など、詳細は決まり次第、受験生向け情報サイト甲南Ch.でご案内いたします。

●甲南大学受験生向け
情報サイト **甲南Ch.**



2026年4月、理工学部に 「環境・エネルギー工学科」を設置構想中

甲南大学は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の令和5年度大学・高専機能強化支援事業「学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援(支援1)」に選定されました。この支援を受け、2026年4月、理工学部に新たな学科「環境・エネルギー工学科(入学定員40名、収容定員160名)」を設置構想中です。新学科では、化学・物理・地学などの科学の素養と倫理的、社会的能力を併せもち、環境・エネルギー工学分野(グリーン社会を実現し、経済と環境の好循環をもたらすマテリアル分野)で活躍できる人材・技術者の養成を目的としています。詳細は確定次第、大学ホームページに掲載いたします。



甲南大学法科大学院(法学研究科法務専攻)を廃止しました

2023年10月31日をもって、甲南大学法科大学院(法学研究科法務専攻)は廃止となりました。2004(平成16)年4月の開学以来、476名の修了生および171名の司法試験合格者(予備試験等による合格者を含む)を輩出しました。本大学院に格別のご支援、ご厚情を賜りました関係者のみなさまに改めて御礼申し上げます。2023年11月1日からは、甲南大学法科大学院研修生委員会を設置し、司法試験の受験資格を有する修了生の勉学の支援を引き続き行います。



KONAN TOPICS

神戸国際コミュニティセンターと包括連携協定を締結

8月28日、甲南大学と公益財団法人神戸国際コミュニティセンター(KICC)は、グローバル教育の充実および神戸のさらなる国際都市としての発展をめざし、包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、両者が協力して、地域における国際交流や多文化共生の推進、2024年4月に新設される「グローバル教養学環(STAGE)」との教育プログラムの連携などを実施していきます。

本連携に関連し、12月2日には同センターとの共催による「神戸国際コミュニティセンター(KICC)×大学連携 国際都市KOBE推進シンポジウム」を開催。神戸市、KICC、およびKICCと協定を結ぶ神戸市内の大学(甲南大学、神戸外国語大学、神戸常盤大学、日本経済大学)が登壇し、神戸のグローバルな発展に向けて、多文化共生や留学生の定着などの課題に関して討論しました。



ベトナムのダナン大学・ドンア大学と包括連携協定を締結

甲南大学は10月6日にダナン大学、11月24日にドンア大学と包括連携協定を締結しました。ダナン大学は1994年にベトナム・ダナン市に設立された国立総合大学で40を超える学部に約55,000人の学生を有しています。また、ドンア大学は17学部、1大学院を有し学生数は約10,000人の私立総合大学で、設立以来、日本企業・大学との関係および日本語教育を重視しており、大学全体で約2,000人の学生が第一外国語として日本語を学んでいます。2020年には日本言語文化学部を開設し、現在は約600人の学生が学んでいます。

包括連携協定のもと、両大学とは交換留学や短期留学プログラム(エリースタディーズ)の実施、ダナン大学とは理系学部などとの研究面で、ドンア大学とは日本言語文化学部との日本語教育での連携などを進める予定です。



甲南大学長に 中井伊都子学長が再任

2024年3月31日をもって、任期満了となる中井伊都子第18代学長(法学部教授)の再任が12月22日開催の理事会で決定しました。

任期は、2024年4月1日から2026年3月末までとなります。



ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム

地域のため、身近な人のために何かを始めたいという意欲のある人が、地域社会のためのスモールビジネスを実現できるよう育成する、実践型の起業家育成プログラムです。このプログラムを受講した人が、地域の魅力づくりや課題の解決に向けたビジネスを始めることで、兵庫・神戸の活性化につなげることをめざしています。ビジネスの立ち上げに必要な知識・思考力を習得し、ビジネスの実現に向けて専門家チームの助言が受けられます。

- 受講期間 1年間(2024年9月17日～2025年9月16日)(予定)
- 定員 20名



金融リテラシー教育プログラム

昨今、個々人が経済的に安心して有意義な人生を送るためには、自らの家計金融資産を適切に管理し、賢明な投資や借り入れの判断を下す必要性が高まっています。本プログラムは、金融ビジネスとは一線を画した高等教育機関である大学において中立的な立場から、金融環境を取り巻くさまざまな制度や仕組み、デジタル技術の進化によって複雑化する金融サービスや金融商品について正しく理解をするための金融教育を提供します。

- 受講期間 半年間(2024年9月17日～2025年3月31日)(予定)
- 定員 30名(予定)



<2024年度秋 プレ開講予定>

今だからわかる学びの楽しさ、 いくつになっても成長できる喜び リカレント教育プログラム

学びを通じてより豊かな人生を送るために、甲南大学では社会人の学びなおしのためのリカレント教育を実施しています。多様なニーズに対応すべく、スキルアップやキャリアアップにつながる学習プログラムや、充実した人生を送る一助となるような学習プログラムを開講。一定の成績を収めてプログラムを修了した方には「履修証明書」を発行しています。

「履修証明書」を発行する履修証明プログラム※
各プログラムは履修証明プログラムとして実施します。一定の成績を収めてプログラムを修了した方に「履修証明書」を交付します。
※履修証明プログラムとは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、主に社会人を対象とした一定のまとまりのある学習プログラムです。その修了者に対しては、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。

2024年度開講のプログラム

人生100年時代の学びプログラム

※2024年度の募集は終了しています。

充実した豊かな人生を送るための5つのコースを開講。各コースのテーマに関連する科目を選択し、大学の授業を学生たちと一緒に受講します。ワークショップも実施し、大学のゼミのように所属コースの担当教員や仲間と話し合いながら学びを深めていただきます。



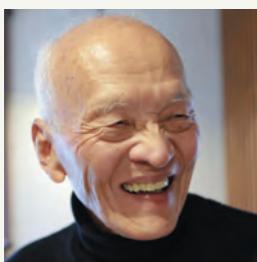
■ 5つのコースから1コースを選択

分野	コーステーマ	コーディネーター
人文科学系	大人の自己探求	教授 西川 耕平
社会科学系	ネクスト・キャリアをどう生きるか	教授 古田 清和*
多文化・国際系	多文化共生、グローバル社会で生きる	准教授 小西 幸男
心理学系	ライフサイクルの心理学	特任教授 宮川 貴美子
社会言語系	自分自身のことばを見つめ直す	名誉教授 都染 直也

- 受講期間 1年間(2024年4月1日～2025年3月31日)
- 定員 100名(各コース20名)

*職名は2023年度時点

MESSAGE
受講生の声



リカレント教育センターアンバサダー
三宅 隆宏さん (S41卒)

「人生100年時代の学びプログラム」の「大人の自己探求コース」を受講して2年目です。新しい自分を見つけて、次の新しい目的を決めるこの課題に日々頭を悩ませています。新しい自分をみつけるにはまず自己開示が必要不可欠と学びました。すべてをさらけ出し自分自身を掘り下げる。「格好」重視で生きてきた私にはなかなか難しい課題です。2年目の最近、やっとできてきたかなと感じます。現在、本音で語り合う機会を家族内で試みています。コーディネーターの西川耕平教授から提案され、毎夕食時にテレビを消して10～20分ほど家人と語ることを10か月ほど続けています。次は娘家族と考え、まず娘と2人だけの時間をつくろうと試みますが、今までそんなことがなかったので警戒され(?)なかなか応じてくれません。これからが本番です。豊かで健全な家族関係をつくり上げるために、アプローチをし続けます。ぜひみなさんも新しい学びや環境にチャレンジしてみませんか。」

問い合わせ

甲南大学 社会連携機構 リカレント教育センター TEL 078-435-2598 (直通) E-MAIL recurrent@adm.konan-u.ac.jp
平日 9:00～17:00

グローバルリテラシー教育プログラム

※2024年度の募集は終了しています。

さまざまな国の人々と文化的多様性を尊重しながら調和・共生していく際に備えておきたい相互理解や価値創造力、社会貢献意識などの素養や思考力を深めることをめざすプログラムです。また、考察したことを英語でまとめて説明・発表するトレーニングも含めたカリキュラムを用意しています。

- 受講期間 1年間(2024年4月1日～2025年3月31日)
- 定員 20名

(2024年度受講スケジュール)	4月	7月8月	9月	1月2月	3月
	前期	夏期	後期	春期	
言語講座 土曜開講		90分×10回		90分×10回	
※本プログラムは修生、言語講座の一般受講者より優先されます。(言語講座を必ず受講できる。)					
リカレント教育科目 土曜開講	リカレント特設科目 90分×15コマ		リカレントワークショップ 90分×15コマ		
※日程によっては2コマ連続で実施することがあります。					



障がいのあるなしに関係なく
お互いに支え合い
ともに生きる社会をつくりたい

もりざね かなえ
森實 香苗さん

2023年4月からソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムを受講中。拡張プラン「スタートアップ創出プログラム」も出願予定。
*取材は2023年12月のものです。

自分の本質と真剣に向き合った時間
「人生の棚卸し」ができたことで、
めざすビジネスが明確になりました

まつい ゆりか
松井 有里加さん

2022年9月から1年間、ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムを受講。修了後の現在は、拡張プラン「スタートアップ創出プログラム」を受講中。
*取材は2023年12月のものです。



「ママたちをサポートしたい」
自分自身を振り返りながら
ビジネスプランをかたちにしていく

会社勤めをしていたころ、二度の出産を経験された松井さん。配偶者は単身赴任中で、頼れる身内も近くにおらず、ワンオペ育児の日々が続きました。気づけば子育てを楽しむどころか負担に感じることも増え、「このまま会社勤めをしながら育児を続けていいのか」と思うようになってしまった。同じように孤独で辛い思いをしているママたちをサポートできたら」「住んでいる地域で仕事ができたら」と考えていたところ、出合ったのが本プログラムでした。

プログラムの受講によって、より強く意識するようになったのが、それまで漠然としていた「ママたちのサポートをしたい」という思い。実現したいビジネスプランをまとめるにあたり、グループワークや研究発表などを通して、自分の考え方を突き詰めていく機会が何度もありました。育児中は仕事との両立が大変で、ホツトできる時間がほしかったこと。子育ては身体が資本と痛感して、育休中にヨガトレインストラクターの資格を取得したこと。当時の自分を振り返り、考えをまとめて「ママたちがいつでも立ち寄ることのできる場をつくりたい」と中間発表でプレゼンテーションしました。受講生には、お子さんのいる男性や起業した大学生などさまざまな立場の人にとって、自分では思いもよらない視点の意見をいただけます。おかげで「一人でやろうとせず、誰かの力を借りてはどうか」「どんな場所ならママたちがホッとできるかなど、実現に向けてより具体的に考えるようになりました。

**拡張プランを受講する中で
実現へと動き始めたビジネスプラン
アドバイスを得て念願のイベント開催へ**

私のように身内が近くにいないなど、ママたちは頼る先の少ない中で、いつも気を張っています。ママ同士が集まって悩みを共有できるような、ホッとくつろげる

「本当にしたいことは何かを考えることが大事」ということばに背中を押され、挑戦してみることに。「障がい者が働ける場づくり」を考えようと思ったのは、就労の面で障がい者には壁があり、経済的な面で不安を感じたからです。障がいがあつてもやりがいを感じて働きたいと考える人が、それぞれ特性を生かして働ける場を作ることを目標にプログラムを受講し、情報収集も行いました。すると私が知っていた以上に、障がい者就労についてさまざま取り組みがされているとわかりました。障がい者の家族であっても知らなかつた情報がたくさんあり、必要とする人に情報がどれだけ届いているのか、障がいのある人が自立生活を送るうえでの課題として感じました。情報を必要としている人へ届けたい」「たくさんの人に助けられてきたからこそ、今度は誰かの役に立ちたい」と、考えるようになりました。

障がいのあるなしは関係なく
すべての人に共通する「食」を通じて
がんばる人を応援したい

障がいのあるなしは制度上区分されており、障がい

必要とする人に情報が届いていない
問題としつかり向き合い、
取り組むことで見えてきた課題

20年間、三児の子育てに専念してきた私は、正直なところ、起業なんて自分にできるだろうかと不安もありました。しかし、開講式で石川路子先生（プログラムコンサルタント）の「起業は夢の実現のための手段の一つ」「本当にしたいことは何かを考えることが大事」ということばに背中を押され、挑戦してみることに。「障がい者が働ける場づくり」を考えようと思ったのは、就労の面で障がい者には壁があり、経済的な面で不安を感じたからです。障がいがあつてもやりがいを感じて働きたいと考える人が、それぞれ特性を生かして働ける場を作ることを目標にプログラムを受講し、情報収集も行いました。すると私が知っていた以上に、障がい者就労についてさまざま取り組みがされているとわかりました。障がい者の家族であっても知らなかつた情報がたくさんあり、必要とする人に情報がどれだけ届いているのか、障がいのある人が自立生活を送るうえでの課題として感じました。情報を必要としている人へ届けたい」「たくさんの人に助けられてきたからこそ、今度は誰かの役に立ちたい」と、考えるようになりました。

受講は家族にとつてもプラスに
夫や息子の世界を広げ
私の学びたい意欲も深まりました

受講によって家族にも良い影響がありました。物流関係の仕事を従事している夫は、人手不足の解決策として開発を進めるロボット機器を、誰でも簡単に操作できる仕様にすることで障がい者雇用につなげようと動き始めました。私が受講生の方から教わった「L-Lブック」は、知的障がい者や日本語が得意でない方など誰にとても読みやすい本で、息子の読書の幅を広げてくれました。私自身、誰でも読む権利がある権利があると改めて痛感し、受講生の方と一緒にグループでL-Lブックを広めるイベントを企画中です。もっと学びたいと意欲が湧き、修了後は拡張プランも出願するつもりです。

ある人は守られ、支援されています。しかし、障がいがあるからといって支援されるばかりではなく、環境や状況によっては、個々の特性を生かしてできることもたくさんあります。それなら環境や状況のほうを変えていくことで、障がいのあるなしに関係なく、みんなが支え合って生きることができるのではないかでしようか。そんな思いから、次第に私はがんばる人々みんなを応援したい、と考えるようになりました。今、すべての人に共通する「食」を通じた活動で、誰もが特性や個性を生かして働くことができ、かつ情報交換もできるような場をつくれないかと考えています。受講によって自分の考えを整理し、実際にビジネスプランを立てた経験が、今後プラスとなってくると思います。

受講当初は「ビジネスとして稼ぐ仕組みをつくるなくては」と肩に力が入っていました。しかし先生が常々おっしゃっていたのは「起業だけがゴールではない」ということ。生活の中で自分自身が何を問題としてとらえているのか、どう解決していくのかを考えることが大切だと教わりました。受講することで「自分が何を感じ、どんな社会を実現させたいのかを徹底的に考え、自分と向き合う時間をもてたことが貴重であり、人生の棚卸しになつたと思います。これから自分が進むべき明確な目標ができたことで、人生がさらに楽しくなりました。



シラバスは冊子からWebへ

授業内容や到達目標などさまざまな授業に関する情報が集約されている「シラバス」。学部ごとに作成されていた時代や、分厚い冊子の時代もありましたが、紙媒体での発行は廃止され、現在は「My KONAN」と呼ばれるポータルサイト上で閲覧することができる。



学部ごとのシラバス

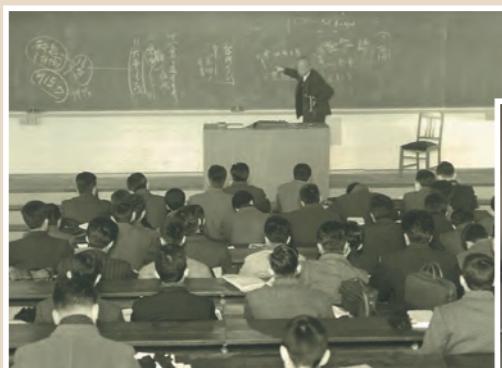
全学部で
一冊にまとめたシラバス

学則の今昔

1953(昭和28)
年当時の学則第6
章(現在は第5章)「学年・学
期及休日」では、前期終了
が現在よりも1か月ほど長く
なっている。

第6章 学年・学期及び休日	
第 16 条	学年へ4月1日を始まり翌年3月31日を終る。
第 17 条	学年へ左ノ2学期と分かれ。
前期	4月1日から10月15日まで。
後期	10月16日から3月31日まで。
第 18 条	日曜日、祝日、本学創立記念日ハ休日トスル。 尤ム期間ハ授業ヲ休止スル。 夏季 7月11日から9月10日まで。 冬季 12月25日から1月7日まで。 春季 3月15日から4月10日まで。 前2項ニ定ムタモノ他必要ニ応ジ学長ハ臨時ニ授業ヲ休止スルコトガナリ。
1953年当時	現在

右の写真は1970(昭和45)年ごろの受講指導の様子。現在も入学生を対象に実施されている。
左の写真は1961(昭和36)年ごろの授業風景。



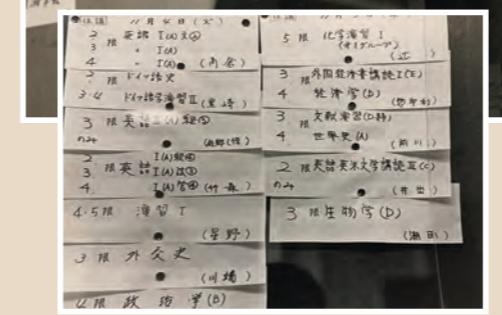
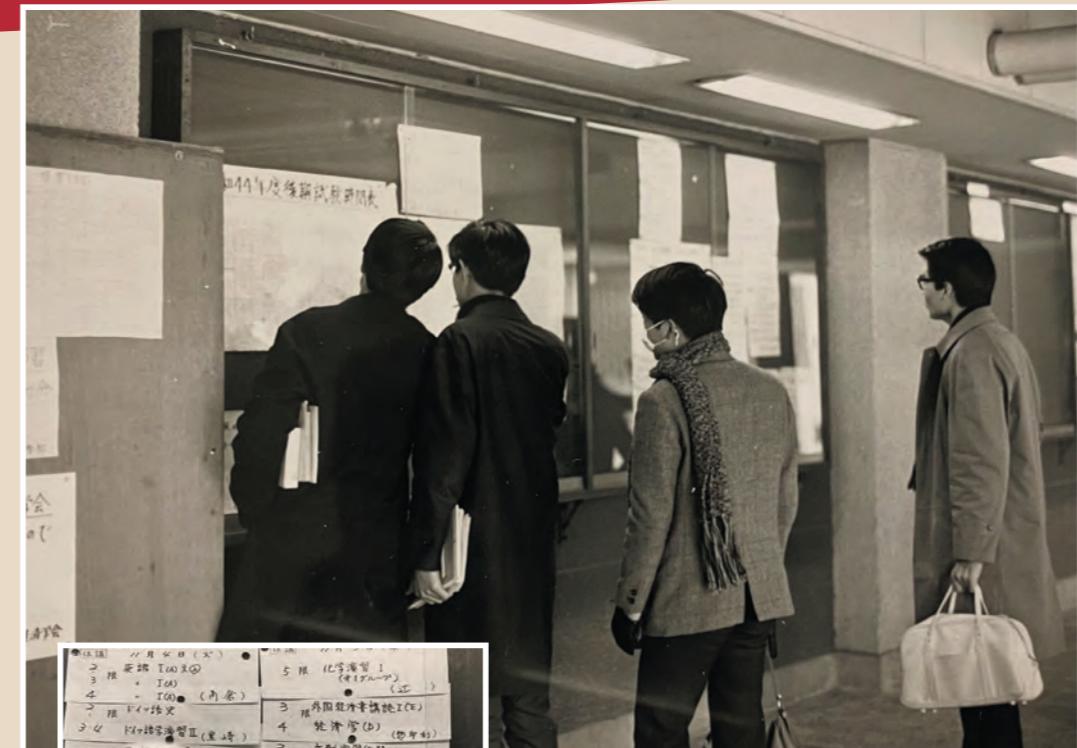
約60年前の授業風景



新入生への受講指導

授業選択に必要なことが記載されており、卒業するまで使用する「履修要項」。大学開学3年目の1953(昭和28)年は「講義題目」と呼ばれていた。その後、名称が「受講要項」に変わり、2006(平成18)年には現在の「履修要項」に変更されている。「履修要項」はWeb上でも公開されており、いつでも閲覧することができる。

「講義題目」から「履修要項」へ



貼り出された休講情報

総合掲示板を見る学生たち。写真は1970(昭和45)年ごろ。必要な情報は紙で貼り出されており、登校時はまずそれらを見に行くのが日課であった。休講情報は当日掲示板を見て、初めて知ることも多かった。

情報伝達は総合掲示板で

現在のキャリアセンターは1970(昭和45)年当時「就職指導部」と呼ばれており、会社説明会の案内や求人票などは廊下にある掲示板に大量に貼り出されていた。



求人票で埋まる 掲示板



現在の図書館前



学生にも活用された図書館前の掲示板

図書館前の掲示板にもたくさんの案内が貼られていたが、現在この場所の掲示板は撤去されている。

甲南 新角 書体

#04

覚えて
いますか?

駅に伝言板があつた時代は情報共有もおおらかでした。期待をふくらませた入学宣誓式。配付されたたくさんの方の資料の中には、分厚い冊子を覚えていていますか。コロナ禍でWeb化が推進され、授業もオンラインに変更されるなど、大学を取り巻く環境にも大きな変化がもたらされました。では、当時はどのように大学からの情報を得ていたのでしょうか。昔はあって、今はないもの、現在も変わらずあるものなどをさまざまな視点から紹介します。

掲示板



御影公会堂食堂

〒658-0045 神戸市東灘区御影石町4-4-1

電話: 078-851-2959
営業時間: 11:00~14:00(ラストオーダー)
定休日: 火曜日

「長谷川町子物語～サザエさんが生まれた日～」

監督: 加藤義人 出演者: 尾野真千子、松坂慶子、三浦友和 ほか
Story: 幼少時から絵を描くことが大好きだった長谷川町子(尾野真千子)。「のらくろ」作者の田河水泡へ弟子入りし、15歳で漫画家デビューを果たす。大人気となった「サザエさん」を描き続ける町子のそばにはいつも家族の支えがあった――。誰もが知る国民的漫画家の半生を描いたドラマ。



アーチがかった大きな窓や調度品

古き良き昭和のワンシーンをここで撮影

神戸市の登録有形文化財である御影公会堂には、1933年の開館から今日までずっと営業を続けているレストランがあります。扉を開けるとそこは昭和モダンの世界。高い天井、やわらかな陽光がとどく大きな窓、重厚な調度品。この特別感ある空間で撮影されたのは、長谷川町子が幼少時に家族みんなでお出かけした食堂で父親の仕事相手とばったり会うシーン。店内の雰囲気がドラマの時代設定と見事にマッチしていました。御影公会堂食堂では創業当時のレシピを受け継いだ本格的な洋食をいただけます。人気メニューのオムハヤシは、2週間かけてじっくり煮込んだデミグラスソースが奥深い味わい。90年もの歴史があるこのお店が、ずっと人々に愛され続けている理由がわかります。

番外編

甲南大学 ポートアイランドキャンパス

映画
「ゲノムハザード ある天才科学者の5日間」
(2014)

主人公が勤めていた製薬会社の研究室に
見立てられたキャンパス

番外編として登場するのは、フロンティアサイエンス学部と先端生命工学研究所が入る甲南大学ポートアイランドキャンパス。2009年に誕生した近未来感漂う校舎が印象的ですが、撮影ロケが入ったのは、研究室やマイラボなどの充実した施設。教員や学生たちにとってはいつも使用している学びの場ですが、なぜか映画の中ではミステリアスな雰囲気が漂うように感じられるところが不思議です。キャンパスには実物の10億倍の大きさで造られたDNAの模型があり、巨大な地球儀を模した外観の図書室も。最寄り駅の名称はポートライナーの「計算科学センター」駅と、サイエンスに特化した環境が視覚的にも伝わってくるキャンパスです。



〒650-0047 神戸市中央区港島南町7-1-20

「ゲノムハザード ある天才科学者の5日間」

監督: キム・ソンス 出演者: 西島秀俊、キム・ヒジョン、真木よう子 ほか
Story: 気づかぬうちに記憶を上書きされ、日本で別人として生きていた自分は、実は韓国人の天才科学者だった――。バイオテクノロジーとミステリーを融合したサスペンス・アクション。原作はサントリーミステリー大賞読者賞を受賞した司城忠朗の小説「ゲノム・ハザード」。

岡本ぶらり

第14回

知っていましたか?
映画・ドラマのロケ地になった
岡本かいわい



ロケ地は、山手のさらに奥にある静謐な住宅地

岡本の住宅地

映画「マンハント」(2018)

物語が大きく動き出す
逃走シーンに選ばれた閑静な住宅街

住吉川の上流に位置する、通称「ヘルマンハイツ」と呼ばれるエリア。かつてこの地にあったドイツ人ピクトル・ヘルマン氏の大邸宅がその名の由来です。塀のある大きな住宅が建ち並ぶこのあたりは高台であるため、神戸市街から大阪湾の彼方まで見渡すことができるすばらしい眺望。ロケが行われたのは、弁護士である主人公が事件に巻き込まれ、自宅から逃走するシーン。庭を抜け、追っ手を振り切って高さ数メートルの塀から飛び降りるダイナミックなアクションに、高低差のある地形が存分に生かされています。映る時間としてはほんのわずかですが、重要なシーンの一つ。山の手の住宅街に漂う落ち着いた雰囲気が、映画に一役買っています。

神戸市東灘区西岡本エリア

「マンハント」

監督: ジョン・ウー 出演者: チャン・ハンユー、福山雅治 ほか
Story: ある朝、目覚めると身に覚えのない殺人事件に巻き込まれていた主人公(チャン・ハンユー)は、何者かに仕組まれた罠と気づき、逃走する。独自の捜査で追いかける刑事(福山雅治)は、事件に違和感を覚え始め…。原作は西村寿行のサスペンス小説「君よ憤怒の河を涉れ」。



私たちが紹介します

ナビゲーター/
もっとさんとなんぱーくん
「岡本」のまちをもっともっと知りたい
好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南
の公式キャラクター。



いつもの見慣れた風景もちょっと視点を
変えてみると、また違った表情が見えてくるもの。今回は、映画やドラマでロケ地として使用されたスポットをご紹介します。映画・ドラマのプロたちに選ばれた岡本かいわいをお楽しみください。

